



63-288550

Cited Reference No.14 in PCT/IPEA/408

Laid-open Patent Application No. 63-288550 laid open on November 25, 1988

Patent Application No. 62-124259 filed on May 21, 1987

Applicant: Matsushita Denki Sangyo Kabushiki Kaisha

Inventor: T. Shimizu

Title: Telephone Unit

Claim:

1. Telephone unit provided with:  
means for converting the voice signal inputted via a communication channel into character code;  
memory means for storing said character code into memory medium; and  
means for output of the character code of said memory means.

Reference numerals in a drawing figure:

- 5...character code generating means
- 6...character code memory means
- 7...character code memory medium
- 9...character code reading means
- 10...character code output means
- 11...character code output part

④ 日本国特許庁 (JP) ⑤ 特許出願公開  
 ⑥ 公開特許公報 (A) 昭63-288550  
 ⑦ Int.Cl. 分類記号 庁内整理番号 ⑧ 公開 昭和63年(1988)11月25日  
 H 04 M 1/65 A-7608-5K  
 11/00 302 8020-5K 審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑨ 発明の名称 電話装置

⑩ 特 願 昭62-124259  
 ⑪ 出 願 昭62(1987)5月21日  
 ⑫ 発 明 者 清水 剛 神奈川県横浜市港北区綱島東4丁目3番1号 松下通信工業株式会社  
 ⑬ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地  
 ⑭ 代 理 人 井理士 中尾 敏男 外1名

を有し、記憶媒体としてはカセットテープ(磁気テープ)が一般に用いられている。  
 発明が解決しようとする問題点  
 しかしながら、上記従来の電話装置では、音声信号を記憶するための磁気テープの記憶容量が小さい(例えば、最大2時間)ために、記憶する音声データ量が限定されるという問題点がある。  
 本発明は上記問題点を鑑み、多くの音声データを記憶することができ、電話装置を提供することとを目的とする。  
 問題点を解決するための手段  
 本発明は、上記問題点を解決するために、通信回線を介して入力する音声信号を文字コードに変換して記憶するように構成したことを特徴とする。  
 作用  
 本発明は上記構成により、音声信号を文字コードの音声データとして記憶することができるため、フロービディスク、光ディスク、磁等の大容量の記憶媒体に記憶することができ、したがって、従来の電話装置は、自動着信機能と通信回線を介して入力する音声信号を記憶する機能多くの音声データを記憶することができる。

実 施 例

以下、図面を参照して本発明に係る実施例を説明する。図は、本発明に係る電話装置の一実施例を示すブロック図であり、通信路系は図示省略されている。

図において、1は、通信回線を介して入力する音声信号(例えば、16Hzの呼び出し信号)を検出する着信検出手段、2は、着信検出手段1が着信を検出した場合に接続する自動着信制御を行う自動着信制御手段、3は、回線の閉路、開放を行う回線制御手段、4は、通信回線からの音声信号が回線制御手段3を介して入力する音声入力手段である。

5は、通信回線から回線制御手段3、音声入力手段4を介して入力する音声信号を音声認識して文字コードを生成する文字コード生成手段、6は、文字コード生成手段5からの文字コードを文字コード記憶媒体7に記憶するための文字コード記憶手段であり、文字コード記憶媒体7は、フロービディスクや光ディスク等の大容量の記憶媒体が用

着信検出手段1は、通信回線からの着信を検出すると、着信検出信号を自動着信制御手段2に出力し、自動着信制御手段2は、回線制御手段3を制御することにより回線を閉路する。自動着信制御手段2は、次いで音声入力手段4を起動し、引き続いて回線を介して入力する音声信号を文字コード生成手段5に入力させる。

文字コード生成手段5は、音声入力手段5からの音声信号を1面づつ認識して文字コードを生成し、文字コード記憶手段6に出力する。文字コード記憶手段6は、文字コード記憶媒体7を制御して文字コードを記憶する。

次に、文字コードを読み出す場合は、入力手段8に読み出し指示が入力すると、文字コード読み出し手段9は、文字コード記憶媒体7の文字コードを読み出し、文字コード出力手段10は、読み出された文字コードを表示データ等に変換して文字コード出力部11に出力させる。

したがって、上記実施例によれば、音声信号を文字コードに変換するために、音声データをフロー

いられ、また、文字コード記憶手段6は、フロービディスク型記憶装置(FDD)や光ディスク等が用いられる。

8は、文字コード記憶媒体7に記憶された文字コードを読み出す指示を入力するための入力部、9は、入力部8からの読み出し指示により文字コード記憶媒体7に記憶された文字コードを読み出す文字コード読み出し手段、10は、文字コードを読み出し手段9により読み出された文字コードを文字コード出力部11に出力する文字コード出力手段である。

文字コード読み出し手段9は、文字コード記憶手段6と同様に、フロービディスク型記憶装置(FDD)や光ディスク等が用いられ、文字コード出力手段10は、LCD制御回路、CRT制御回路、プリンタ制御回路等が用いられ、文字コード出力部11は、液晶表示部、CRTディスプレイ、プリンタ等が用いられる。

次に、上記構成に係る実施例の動作を、先ず文字コードを記憶する場合について説明する。

フロービディスクや光ディスク等に記憶することができ、したがって、大容量の音声データを記憶し、また、読み出すことができる。

また、上記実施例では、通信回線からの音声信号をメモリーとして表示、印字することができ、るために、留守番電話装置の他、会社等の自動受付装置等に用いることができる。大量の音声データを記憶することができる。

次に、上記実施例では、音声データを文字コード等の記憶媒体に音声データを記憶するよう構成したが、小容量の半導体メモリをバッファとして用い、既に蓄積印字するように構成することもでき、簡単な構成で多くの音声データを記憶することができる。

発明の効果

以上説明したように、本発明は、通信回線を介して入力する音声信号を文字コードに変換して記

- 憶するように構成したので、多くの音声データを記憶することができる。
4. 図面の簡単な説明
- 図は、本発明に係る電話装置の一実施例を示すブロック図である。
- 5…文字コード生成手段、6…文字コード記憶手段、7…文字コード記憶媒体、9…文字コード読み出し手段、10…文字コード出力手段、11…文字コード出力部。

代理人の氏名 弁護士 中 尾 敏 男 ほか1名

